

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(2)-ウ	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	施策	①幼児教育の充実
			施策の小項目名	○幼児教育の質を高める取組
主な取組	幼児教育施設への支援		対応する成果指標	幼児理解について保育者同士が日常的に「振り返り」をしている割合
施策の方向	<p>・幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培う大事な時期であることから、遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して、何かに熱中・集中して取り組む姿勢や、気持ちのコントロール、コミュニケーション等の非認知能力を育むとともに、一人ひとりが自分の良さに気づき、自信を持って行動できる子どもを育むため、すべての幼児教育・保育施設において、深い幼児理解に基づいた質の高い教育・保育の実現に取り組みます。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
<p>幼児教育の質の向上および円滑な幼小接続の実現に向けて、県内の乳幼児期の保育・教育の質の向上を図るため、県幼児教育アドバイザー等が市町村行政や幼児教育保育施設及び小学校等からの依頼に応じ研修や訪問を通して支援する。</p>	<p>県,市町村</p>	<p>幼児教育アドバイザーによる幼児教育施設訪問時の指導助言及びフォローアップ</p>		
		<p>園訪問及びフォローアップの園数(累計)</p>		
		50園	50園(100園)	50園(150園)
担当部課【連絡先】	教育庁義務教育課	【 098-866-2741 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名		市町村幼児教育支援事業		予算事業名		市町村幼児教育支援事業
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
各省計上	直接実施	8,663	11,002	各省計上	直接実施	12,738
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
訪問支援・研修支援等の活動内容に追加して、市町村幼児教育アドバイザーを対象とした研修を実施しスキルアップを図る。				架け橋期プログラム・架け橋期カリキュラムに関することを加え、市町村行政、幼児教育保育施設および小学校等の支援を図る。		

活動指標名	園訪問及びフォローアップの園数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	64園	47園	52園	50園(150園)	100.0%	順調	令和6年度は、園訪問支援(52件)、研修支援(62件)を実施。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

訪問支援や研修支援を通じて、各市町村や幼児教育保育施設における支援内容の理解・促進が進んでいることから、実績数も増加しており、目標値も達成している状況にある。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
○各市町村の幼児教育アドバイザーの情報交換・意見交換や協議・講話などを実施し、各市町村の実態に合わせた助言・指導を行うなどのスキルアップを図る。	・市町村における幼児教育の質の向上をめざし、市町村幼児教育アドバイザー等の研修を通して、他市町村との情報共有および協議、講話等により、市町村幼児教育アドバイザーの資質向上につながっている。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	市町村における幼児教育アドバイザーは未配置の市町村があり、市町村の実態に応じた対応が求められている。幼児教育アドバイザーの研修等を実施し、スキルアップを図ることが必要。	⑤ 情報発信等の強化・改善	市町村幼児教育アドバイザー等を対象に、他市町村との情報共有および協議、講話等の研修を通して市町村の幼児教育の質の向上につなげる。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(2)-ウ	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	施策	①幼児教育の充実
			施策の小項目名	○幼児教育・保育施設と小学校との円滑な接続の実現に向けた取組
主な取組	市町村の福祉部門と教育部門の連携強化のための取組		対応する成果指標	幼児理解について保育者同士が日常的に「振り返り」をしている割合
施策の方向	・子どもたちの発達と学びの連続性を確保するため、幼児教育・保育施設と小学校との円滑な接続の実現に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
保育教諭を対象とした子供たちの発達と学びの連続性を確保するための研修の実施や、市町村幼小接続アドバイザー等を対象とした「沖縄県幼児教育アドバイザー等連絡協議会」の開催により、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図る。	県,市町村	市町村幼小接続アドバイザー、幼児教育アドバイザー等、幼児教育専任の研修会の開催		
		県幼児教育アドバイザー等連絡協議会の開催数(累計)		
		3回	3回(6回)	3回(9回)
担当部課【連絡先】	教育庁義務教育課	【 098-866-2741 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 -				予算事業名 -		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	直接実施	—	—	—	—	
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
市町村幼小接続アドバイザーや市町村幼児教育担当者等を対象に「沖縄県幼児教育アドバイザー・初任者研修指導員等連絡協議会」を3回開催した。				市町村幼小接続アドバイザーや市町村幼児教育担当者等を対象に「沖縄県幼児教育アドバイザー等連絡協議会」を3回開催する。		

活動指標名	県幼児教育アドバイザー等連絡協議会の開催数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	3回	3回	3回	3回 (9回)	100.0%	順調	沖縄県幼児教育アドバイザー等連絡協議会を参集形式で3回実施した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>市町村幼小接続アドバイザー（幼児教育アドバイザー）や市町村幼児教育担当者等を対象に、3回（5月・8月・2月）参集型にて実施した。行政説明や講話、グループ協議等を通して幼児教育の質の向上に向けた取組や小学校教育との接続の重要性を理解してもらい、市町村での研修会等において保育者や小学校教諭に情報共有するよう依頼した。</p>	
<p>(2) これまでの改善案の反映状況</p>	
令和6年度の取組改善案	反映状況
<p>○市町村幼児教育担当者連絡協議会の開催を年3回行うことで、幼小接続アドバイザー等や幼児教育専任担当者の未配置市町村に対し、配置の必要性についての理解を促す。</p>	<p>・令和4・5・6年度とテーマを明確にした協議会を開催し、時期に応じた講話内容を提供したことで、市町村幼児教育アドバイザー等の配置について重要性を理解させる機会となった。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	<p>幼児教育の質向上と幼小接続推進に向け、市町村幼小接続アドバイザー等配置の有無により取組への差が生じるため、県主催の連絡協議会等を通して伝達する機会を増やし必要性について理解を促す必要がある。</p>

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
① 執行体制の改善	<p>市町村幼児教育担当者連絡協議会の開催の際、定期開催やテーマを明確にした研修を計画することで、幼小接続アドバイザー等の未配置市町村に対して、配置の必要性についての理解を促す。</p>

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(2)-ウ	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	施策	②個性を大切にし、個々の能力を伸ばす教育の推進
			施策の小項目名	○理数科目への興味関心を高める取組
主な取組	沖縄科学グランプリの開催		対応する成果指標	「自分には良いところがある」と考えている児童生徒の割合
施策の方向	・ 科学技術に関する出前講座や沖縄科学グランプリ等の科学系コンテストの開催等を通して、理数科目の興味関心の向上に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
科学技術、理科、数学、情報に対する興味や関心を喚起するとともに、科学的な思考力、判断力、表現力等を育成するため、沖縄科学グランプリを開催する。	県	沖縄科学グランプリ(科学の甲子園県予選)の開催		
		沖縄科学グランプリへの参加チーム数(累計)		
		25チーム	25チーム(50チーム)	25チーム(75チーム)
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【 098-866-2715 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	沖縄科学技術向上事業			予算事業名	沖縄科学技術向上事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
県単等	直接実施	5,232	4,975	主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	直接実施	4,975
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
10月25日(金)総合教育センターにて開催。20校27チーム180名が参加し、筆記競技、実技競技、生徒交流に取り組んだ。				10月24日(金)総合教育センターにて開催予定。参加チームの上限を30チームに拡大して開催する予定。		

活動指標名	沖縄科学グランプリへの参加チーム数(累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
		20チーム	27チーム	27チーム	25チーム(75チーム)	100.0%	順調

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

応募のあった20校27チーム180名全員を参加させることができた。北部・離島からも多くのエントリーがあり、目標値も達成していることから、進捗状況としては「順調」と判断した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
○会場レイアウトや実験器具の配置、舞台上を活用するなど、多数の生徒が参加しても活動に支障が生じない会場設営を検討する。	沖縄科学技術向上事業実行委員並びに運営委員と連携し、応募者全員が参加できるよう実技競技の内容や会場レイアウトを工夫した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	県大会参加希望チームが年々増加しており、30チーム200名を超える生徒を収容できるよう工夫が必要である。	④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	会場レイアウトや実技競技の内容、実験器具の配置、舞台上を活用するなど、多数の生徒が参加しても活動に支障が生じない会場設営を検討する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(2)-ウ	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	施策	②個性を大切にし、個々の能力を伸ばす教育の推進
			施策の小項目名	○情報教育の充実
主な取組	児童生徒がICTに触れる機会の推進		対応する成果指標	「自分には良いところがある」と考えている児童生徒の割合
施策の方向	・プログラミング教育など情報教育の充実を図り、情報活用能力の向上に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
児童生徒を対象としたICT児童生徒セミナープログラミング学習やPC組み立て等の実習を通して情報活用能力の育成を図る。	県	プログラミング、パソコン組み立て、先端的なソフトウェアの活用研修の実施		
		研修参加人数(累計)		
		130人	140人(270人)	140人(410人)
担当部課【連絡先】	教育庁教育DX推進課	【 098-894-3265 】	関連URL	<a href="https://sites.google.com/open.ed.jp/jidousemina2024/">https://sites.google.com/open.ed.jp/jidousemina2024/</a>

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	—			予算事業名	—	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
—	—			—	—	
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		

様式1 (主な取組)

小学生向けICT児童生徒セミナー（ロボットプログラミング）や中学生向けICT活用セミナー（PCの分解・組立、3Dゲーム制作）を実施した。	小学生向けICT児童生徒セミナー（ロボットプログラミング）や中学生向けICT活用セミナー（PCの分解・組立、3Dゲーム制作）を計画している。
--	--

活動指標名	研修参加人数（累計）		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	50人	85人	82人	140人(410人)	58.6%	大幅遅れ	小中学校の夏休み期間(7月22日~24日)に実施した。小学生の部では、プログラミングの基本を学習しロボットを動かした。中学生の部では、PCの組立・分解、プログラミングを活用した3Dゲーム制作を行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

毎年、児童生徒を対象としたセミナーは、定員を大幅に超える参加申し込みがある一方、対応できる施設や機材、日程等が限られるため、現在の体制においては、目標値を達成するのが難しい現状がある。そこで、昨年度はセミナーで扱うプログラミングの内容を学校教員に紹介し、学校の授業のなかで実践してもらうことで、児童生徒がICTに触れる機会の創出を図った。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 使用機材や施設の許容範囲の中で、より多く児童生徒が受講できるよう日程等を調整する必要がある。</li> <li>○ 体験交流活動は応募人数の予測が難しく、適切な目標値に見直す必要がある。</li> <li>○ 活動計画に合わせた目標値へ見直す必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講座の時期を参加しやすい日時に設定したことで、数多くの児童生徒が参加しやすい内容となった。</li> <li>○ 体験交流活動は、講座と実習内容の調整が求められるため、学校現場の状況を把握して検討する。</li> <li>○ 活動計画が目標値と見合う内容になるように検討する。</li> </ul>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	開設したセミナーでは、募集定員に対して受講希望者が多く、受講できない児童生徒がいた。また、保護者の要望のニーズも高い。
⑦ その他(改善余地の検証等)	適応教室に通う児童生徒が参加する体験交流会では、希望する児童生徒の数やニーズの変動があるため、適切な募集人数や内容を設定・見直す必要がある。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
⑧ その他	使用する機器（ロボットや端末等）や施設の許容範囲の中で、より多くの児童生徒が受講できるように環境づくりを行う必要がある。
⑦ 取組の時期・対象の改善	体験交流活動は、応募人数の予測が難しく、適切な目標値に見直していく弾力性が求められる。

様式1 (主な取組)

<p>⑦ その他(改善余地の検証等)</p>	<p>GIGAスクール構想の第2期に備え、1人1台端末やICT機器の導入が進んでいくため、目標値を見直す必要がある。</p>	<p>⑦ 取組の時期・対象の改善</p>	<p>活動計画に合わせた目標値へ見直す必要がある。</p>

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(2)-ウ	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	施策	②個性を大切にし、個々の能力を伸ばす教育の推進
			施策の小項目名	○情報教育の充実
主な取組	情報活用能力向上研修の実施		対応する成果指標	「自分には良いところがある」と考えている児童生徒の割合
施策の方向	・プログラミング教育など情報教育の充実を図り、情報活用能力の向上に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
プログラミング学習やコンピュータのしくみを学ぶ実習を通して情報活用能力の育成を図る。	県	プログラミング、パソコン組み立て、先端的なソフトウェアの活用促進の実施		
		研修参加人数(累計)		
		140人	140人(280人)	140人(420人)
担当部課【連絡先】	教育庁教育DX推進課	【 098-894-3265 】	関連URL	<a href="https://sites.google.com/open.ed.jp/jidousemina2024/">https://sites.google.com/open.ed.jp/jidousemina2024/</a>

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名	—				予算事業名	—		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額		R7年度			
—	—				主な財源	実施方法	当初予算額	
					—	—		
令和6年度活動内容					令和7年度活動計画			
小学生向けICT児童生徒セミナー（ロボットプログラミング）や中学生向けICT活用セミナー（PCの分解・組立、3Dゲーム制作）を実施した。					小学生向けICT児童生徒セミナー（ロボットプログラミング）や中学生向けICT活用セミナー（PCの分解・組立、3Dゲーム制作）を計画している。			
活動指標名	研修参加人数（累計）		R6年度			進捗状況	活動概要	
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		教育センターのセミナーで3日間で実施した。小学生の部では、プログラミング学習の基本を学習し、ロボットを動かした。中学生の部では、PCの組み立て・分解、プログラミンを活用した3Dゲームづくりを行った。	
	50人	85人	82人	140人（420人）	58.6%	大幅遅れ		

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>毎年、児童生徒を対象としたセミナーは、定員を大幅に超える参加申し込みがある一方、対応できる施設や機材、日程等が限られるため、現在の体制においては、目標値を達成するのが難しい現状がある。そこで、昨年度はセミナーで扱うプログラミングの内容を学校教員に紹介し、学校の授業のなかで実践してもらうことで、児童生徒がICTに触れる機会の創出を図った。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 使用機材や施設の許容範囲の中で、より多く児童生徒が受講できるよう日程等を調整する必要がある。</li> <li>○ 体験交流活動は応募人数の予測が難しく、適切な目標値に見直す必要がある。</li> <li>○ 活動計画に合わせた目標値へ見直す必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講座の時期を参加しやすい日時に設定したことで、数多くの児童生徒が参加しやすい内容となった。</li> <li>○ 体験交流活動は、講座と実習内容の調整が求められるため、学校現場の状況を把握して検討する。</li> <li>○ 活動計画が目標値と見合う内容になるように検討する。</li> </ul>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	開設したセミナーでは、募集定員に対して受講希望者が多く、受講できない児童生徒がいた。また、保護者の要望のニーズも高い。
⑦ その他(改善余地の検証等)	社会情勢に合わせて希望する児童生徒の数やニーズの変動があるため、適切な募集人数や内容を検討していく必要がある。
⑦ その他(改善余地の検証等)	GIGAスクール構想の第2期に備え、1人1台端末やICT機器の導入が進んでいくため、目標値を見直す必要がある。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
⑧ その他	使用する機器に合わせた人数の調整が求められる。限られた環境の中で、より多くの児童生徒が受講できるように工夫を行う必要がある。
⑦ 取組の時期・対象の改善	機器や機材を活用した実習を取り入れた場合には、応募人数の予測が難しく、適切な目標値に見直していく弾力性が求められる。
⑦ 取組の時期・対象の改善	活動計画に合わせた目標値へ見直す必要がある。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(2)-ウ	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	施策	②個性を大切にし、個々の能力を伸ばす教育の推進
			施策の小項目名	○文化芸術活動や体育活動に対する支援
主な取組	学校体育団体補助事業		対応する成果指標	「自分には良いところがある」と考えている児童生徒の割合
施策の方向	・文化芸術活動や体育活動に対する支援を行い、文化芸術やスポーツ分野において能力を伸ばす教育に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
学校体育関係団体に補助金を交付し、円滑な活動の推進と当該団体の充実強化を図るとともに、競技力の向上に寄与し、生徒の健康の保持増進を図る。	県	離島生徒が県内・県外大会に参加する際の派遣費補助			
		大会派遣費補助人数(累計)			
		2,200人	2,200人(4,400人)	2,200人(6,600人)	
担当部課【連絡先】	教育庁保健体育課		【 098-866-2726 】	関連URL	—

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	学校体育団体補助事業			予算事業名	学校体育団体補助事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	補助	51,639	53,956	県単等	補助	66,811
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		

様式1 (主な取組)

全国高校総体等への生徒派遣のため高体連等に補助金を交付。強化指定校を26校指定。また、離島生徒が県内外の大会に参加する際の派遣費を補助した。

全国高校総体等への生徒派遣のため高体連等に補助金を交付。強化指定校を26校指定。また、離島生徒が県内外の大会に参加する際の派遣費を補助する。

活動指標名	大会派遣費補助人数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	1,670人	2,324人 (3,994人)	2,175 (6,169) 人	2,200人 (6,600人)	98.9%	順調	高等学校総合体育大会 (全国大会および九州大会) の開催および生徒派遣のため、高体連等へ補助した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

大会派遣費補助人数の目標値2,200人に対して、実績2,175人と概ね達成していることから、「順調」と判断した。取組の効果としては全国総体・九州総体が開催され選手を派遣できた。全国大会 (令和6年8月開催) へは24人を、九州大会 (令和6年6月開催) へは26人を派遣できた。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技力向上には、指導者の工夫改善が常に求められ、その役割が大きいことから、引き続き九州大会や全国大会等で上位入賞等の実績のある教職員が安定的に指導できる環境整備を検討する。</li> <li>・令和5年度同様、競技力向上を図るには、強化推進に必要な長期的支援が必要であることから、引き続き第2期沖縄県スポーツ推進計画に基づき支援する。</li> <li>・競技団体および中体連・高体連と連携した少年種別の継続した強化支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強化指定校を26校指定し各競技の強化に取り組んだ。</li> <li>・全国大会での上位入賞校・選手の輩出には選手の育成が必須である為、各競技団体の工夫により、小中学校と高校の合同練習等の強化に取り組んだ。</li> </ul>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化 (外部環境の変化)	できるだけ短時間に合理的かつ効率的・効果的な活動が行えるよう、各校の監督・コーチの熱心な指導、強化指定校による選手・チーム強化、各団体県連・協会のバックアップ等、工夫して取り組む必要がある。
⑦ その他 (改善余地の検証等)	今後も競技成績を維持するために、継続して優秀な指導者継続配置を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	競技力向上には、指導者の工夫改善が常に求められ、その役割が大きいことから、引き続き九州大会や全国大会等で上位入賞等の実績のある教職員が安定的に指導できる環境整備を検討する。
② 連携の強化・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技力向上を図るには、強化推進に必要な長期的支援が必要であることから、引き続き第2期沖縄県スポーツ推進計画に基づき支援する。</li> <li>・競技団体および中・高体連と連携した少年種別の強化支援</li> </ul>

様式1 (主な取組)


様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(2)-ウ	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	施策	②個性を大切にし、個々の能力を伸ばす教育の推進
			施策の小項目名	○文化芸術活動や体育活動に対する支援
主な取組	青少年文化活動事業費		対応する成果指標	「自分には良いところがある」と考えている児童生徒の割合
施策の方向	・文化芸術活動や体育活動に対する支援を行い、文化芸術やスポーツ分野において能力を伸ばす教育に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
本県の中学校や高校の総合文化祭への大会運営費補助や、高等学校文化連盟が行う派遣費助成への補助を行うことで、文化活動の発表の場を確保するとともに、各分野の技術向上と充実を図ることを目的とする。	県	中学校・高等学校生徒の大会派遣費補助		
		大会派遣費補助人数(累計)		
		2,000人	2,000人(4,000人)	2,000人(6,000人)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課 【 098-866-2731 】		関連URL	<a href="https://www.okikoubunren.com/">https://www.okikoubunren.com/</a> 、 <a href="http://o-chubun.chu.jp/">http://o-chubun.chu.jp/</a> □

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	青少年文化活動事業費			予算事業名	青少年文化活動事業費	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	補助	15,827	15,709	県単等	補助	15,894
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
県中学校文化連盟・県高等学校文化連盟への補助金を通して、生徒の文化活動を支援した。				県中学校文化連盟・県高等学校文化連盟への補助金を通して、生徒の文化活動を支援する。また、総合開会式参観など各文化連盟と調整し、連携を図る。		

活動指標名	大会派遣費補助人数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	1,743人	1,929人	1,995人	2,000人 (6,000人)	99.8%	順調	文化活動の発表の場を確保するとともに各分野の技術向上を図るため、県中文連及び県高文連の強化費、大会運営費、派遣費に関する補助を行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

県外大会や県内大会への離島生徒の大会派遣費の補助について継続的な支援を行った。年々、県内外大会への派遣補助人数が増えており、目標値に限りなく近づいている。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
<p>○県内外大会への参加者の経済的負担を減らすため、各文化連盟と連携し、吹奏楽部門や郷土芸能部門等の楽器や小道具等の運搬費補助について支援を行えるよう協議する。□</p> <p>○離島の部活動生の経済的負担を軽減するため、クラウドファンディングを実施し、大会派遣費補助を拡充する。</p>	<p>○県中学校総合文化祭総合開会式への参加において、楽器や小道具等の運搬の補助支援を県中学校文化連盟を介して行った。</p> <p>○令和6年度にクラウドファンディングで集まった支援金を、離島の部活動生の派遣費補助に充て、経済的負担の軽減を図った。</p>

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	離島の部活生が県内外大会に参加する際、航空機や船等の利用が必須のため、保護者の経済的負担が大きい。	② 連携の強化・改善	令和6年度にクラウドファンディングで集まった支援金を、離島の部活動生の派遣費補助に充て、経済的負担を軽減する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(2)-ウ	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	施策	③学校教育におけるキャリア教育の推進
			施策の小項目名	○キャリア教育の推進
主な取組	進路希望調査における進路未定者の多い高等学校に対し支援		対応する成果指標	家で自ら計画を立てて勉強している児童・生徒の割合 (小学校・中学校)
施策の方向	<p>・「沖縄県キャリア教育の基本方針」に基づき、教育活動全体を通して、キャリア教育を促す取組を推進し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる基礎的・汎用的能力の育成を意識した取組を推進します。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
県立高等学校進路未決定者(主に1年生)を支援するため、キャリアコンサルタントを派遣し、キャリア講演会、キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング等を実施	県	支援校におけるキャリア教育講演会、キャリアカウンセリングの実施		
		進路未定者の改善支援校数(累計)		
		15校	15校(30校)	15校(45校)
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課                     【 098-866-2715 】	関連URL	—	

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	キャリア教育推進事業			予算事業名	キャリア教育推進事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
一括交付金 (ソフト)	委託	9,772	54,238	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ソフト)	委託	47,412
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
<p>早期段階からのキャリア形成の取組を充実させ、3年生での主体的な進路活動の推進のため、全県立高校にキャリアコンサルタントを派遣し、支援した。</p>				<p>昨年度に引き続き3年生での主体的な進路活動の推進のため、全県立高校にキャリアコンサルタントを派遣し、支援する。</p>		

活動指標名	進路未定者の改善支援校数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	14校	24校	47校	15校 (45校)	100.0%	順調	進路活動の早期化を促し、生徒の自己実現につながるように、キャリアコンサルタントを47校へ派遣し、1年生に対しキャリア形成の支援を実施

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

支援対象を全県立高校へ拡充したことにより、キャリアコンサルタントの派遣によるキャリア形成プログラム授業を実施する学校が増えた。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援の対象を2学年まで拡大する。</li> <li>○キャリア面談の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援の対象を2学年まで拡大できた。</li> <li>○キャリア面談の実施により進路について具体的に考えるようになった生徒が増えた。</li> </ul>

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	キャリア面談の活用についての周知がまだ十分ではない	④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	キャリア面談の各校への周知を徹底し、活用を促す

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(2)-ウ	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	施策	③学校教育におけるキャリア教育の推進
			施策の小項目名	○キャリア教育の推進
主な取組	キャリア教育研修の実施		対応する成果指標	家で自ら計画を立てて勉強している児童・生徒の割合（小学校・中学校）
施策の方向	<p>・「沖縄県キャリア教育の基本方針」に基づき、教育活動全体を通して、キャリア教育を促す取組を推進し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる基礎的・汎用的能力の育成を意識した取組を推進します。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
<p>「社会的・職業的自立」に向けて必要となる基礎的・汎用的能力の育成や、小中高の学びをつなぐ「キャリア・パスポート」の取組を推進するため、ワークショップ等を通じた研修を実施する。</p>	県	教育事務所単位でのキャリア教育に関する研修会の実施 (キャリア形成促進事業研修会)		
		各教育事務所単位のキャリア教育に関する研修会数(累計)		
		2回	2回(4回)	2回(6回)
担当部課【連絡先】	教育庁義務教育課	【 098-866-2741 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	9年間の学びをつなぐ小中キャリア充実事業			予算事業名	9年間の学びをつなぐ小中キャリア充実事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	直接実施	1,456	1,285	県単等	直接実施	1,285
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
研修会の実施。(年2回)				研修会の実施。(年2回)		

活動指標名	各教育事務所単位のキャリア教育に関する研修会数(累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	2回	2回	2回	2回(6回)	100.0%	順調	各教育事務所(6地区)において、キャリア教育に係る研修を年2回実施した。研修では、行政説明、ワークショップ、実践事例発表による好事例の紹介などを行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

令和6年度は、各教育事務所等で年2回の研修を実施できたことから「順調」と判断(6地区×2=12回)。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
○キャリア教育担当者および接続期の担任教諭等を対象とした研修の実施と、通信等を通して好事例を発信する。	○県立学校教育課と連携して実施した中高キャリア地区講座で、校種間の接続を意識した取組の実践例を紹介し、活用の推進を促した。 ○担任教諭等を対象とすることで、キャリア教育の理解の推進を図った。 ○キャリア教育通信等を通して好事例を発信した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	「キャリア・パスポート」の引継ぎや効果的な活用において課題がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	キャリア教育担当者および接続期の担任教諭等を対象とした研修の実施と、通信等を通して好事例を発信する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(2)-ウ	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	施策	③学校教育におけるキャリア教育の推進
			施策の小項目名	○社会との接続を意識した取組
主な取組	新規高卒者の就職内定率の向上及び早期離職防止に向けた支援		対応する成果指標	家で自ら計画を立てて勉強している児童・生徒の割合(小学校・中学校)
施策の方向	・小・中・高・特別支援学校の学びをつなぐ「キャリア・パスポート」の取組や、職場における体験活動等を通して子どもたちの将来や仕事について考えるきっかけを創出し、学ぶことと社会との接続を意識した取組を推進します。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
県立高校生に対し、早期の就職内定獲得と早期離職の防止を図るために、就職希望者および就職指導担当教諭を対象とした研修の実施。県立高等学校に就職支援員20人を配置。	県	各校に応じた就職支援体制を整備・構築し、就職希望者に対する早期の就職活動への取組		
		①就職希望者研修(2年)受講人数(累計) ②就職内定者研修(3年)受講人数(累計)		
		①就職希望者研修(2年)300人 ②就職内定者研修(3年)240人	①就職希望者研修(2年)300人(600人) ②就職内定者研修(3年)240人(480人)	①就職希望者研修(2年)300人(900人) ②就職内定者研修(3年)240人(720人)
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【 098-866-2715 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	就職活動キックオフ推進事業			予算事業名	就職活動キックオフ推進事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
一括交付金 (ソフト)	委託	189,406	115,877	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ソフト)	委託	111,484
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
2年生就職希望者向け研修および3年生就職内定者向け研修、就職指導担当者研修を実施する。また、就職支援員を県内20名、県外に3名配置する。				2年生就職希望者向け研修およびガイダンス、内定者向け研修、就職指導担当者研修を実施する。また、就職支援員を県内16名、県外に3名配置する。		

活動指標名	①就職希望者研修(2年)受講人数(累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	190人	250人	254人	①就職希望者研修300人	84.7%	概ね順調	県内5地区(北部・中部・南部・宮古・八重山※久米島は南部地区に含む)で2年生の就職希望者向け研修および3年生内定者向け研修を参集型で実施。
活動指標名	②就職内定者研修(2年)受講人数(累計)		R6年度				
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	109人	175人	211人	②就職内定者研修240人	87.9%		

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>2年生対象の就職希望者研修を実施し、254人が参加し、昨年度より参加人数が増加した。3年生対象の内定者向け研修会（12月実施）においては、211人が参加し、社会生活への弾みとなる研修になった。各研修とも昨年度より参加人数は増加しているが、目標値には達しておらず、各校の就職指導担当者との連携が必要である。</p>	
<p>(2) これまでの改善案の反映状況</p>	
令和6年度の取組改善案	反映状況
<p>○早期からのキャリア発達を促し、希望進路の早期決定に向けた取組の重要性を、関係機関と連携しながら、会議や研修等で情報発信していく。また、各校の就職指導担当者並びにキャリア担当と連携強化に務める。</p>	<p>県内5地区にて、2年生の就職希望者向け研修を実施。各地区の募集人数の合計300名に対して、受講人数は254人であった。 1・2年生向け就職ガイダンスを講師を派遣して19校にて実施。 就職指導担当者、就職支援員向けの研修を年3回実施。1回目－55人、2回目－59人、3回目85人が参加。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
③ 他地域等との比較 (内部要因)	就職選考開始直後の内定率の向上および早期離職率の改善を図るため、1・2年生に対する早期の就職活動への取組を促す必要がある。また、進路未定者や動き出しが遅い生徒の把握と支援体制作りが必要である。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	早期からのキャリア発達を促し、希望進路の早期決定に向けた取組の重要性を、関係機関と連携し、会議や研修等で情報発信していく。また、各校の就職指導担当者並びにキャリア担当と連携強化に務める。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(2)-ウ	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	施策	③学校教育におけるキャリア教育の推進
			施策の小項目名	○社会との接続を意識した取組
主な取組	就業体験実施による生徒の勤労観・職業観の向上		対応する成果指標	家で自ら計画を立てて勉強している児童・生徒の割合 (小学校・中学校)
施策の方向	・小・中・高・特別支援学校の学びをつなぐ「キャリア・パスポート」の取組や、職場における体験活動等を通して子どもたちの将来や仕事について考えるきっかけを創出し、学ぶことと社会との接続を意識した取組を推進します。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
目的として生徒の豊かな人間性や社会性、望ましい勤労観、職業観をはぐくむ。また、進路指導の充実や、職業人としての基本的なマナー、異世代とのコミュニケーション能力の育成を図る。就業・職場体験を実施する県立中学・高校を対象に、受入事業所の開拓、事前・事後学習での外部講師活用を支援する。	県	進路意識の啓発や職業生活に必要な知識の修得、また職業人としての基本的なマナーや異世代とのコミュニケーション能力の育成		
		就業体験者の受入事業所の開拓率		
		110%	110%	110%
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【 098-866-2715 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	インターンシップ推進事業			予算事業名	インターンシップ推進事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
県単等	委託	8,447	8,125	主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	直接実施	622
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
就業体験等予定生徒数に対し、110%の受入数を確保できる事業所を開拓する。就業体験等の実施校に対し講師派遣に係る報償費・旅費を令達する。				就業体験等の実施校に対し講師派遣に係る報償費・旅費を令達する。		

活動指標名	就業体験者の受入事業所の開拓率		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
		158%	156%	168%	110%	100.0%	順調

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

22校3,055名の生徒が就業体験を実施した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
<p>○就業体験等がより効果的な取組となるよう、実施校の担当者連絡協議会等において、事前・事後学習の充実や校内体制の構築・整備等について説明し、各校での検討を依頼。</p> <p>○令和7年度就業体験実施について、令和6年度中に各校でその必要性・効果等の検証、より効果的な体験活動等の実施の可能性等について検討を依頼。</p>	<p>○就業体験を実施した22校に事前・事後学習の取組として講師派遣に係る報償費・旅費を令達した。</p> <p>○専門高校においては地域や産業界と連携して就業体験と同等の成果が見込まれる効果的な体験活動を計画している学校がある。また、普通高校では総合的な探究の時間等を活用し、各校の実情に応じて特色ある就業体験と同等の成果を得られる取組を計画し、実施している。</p>

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	各校のキャリア教育全体計画における就業体験等の位置付け、ねらい等について全職員で共通認識を持ち、年度毎のマネジメント・サイクルを機能させる校内体制の構築・整備が必要である。	⑧ その他	キャリア教育推進事業において、校内体制の構築・整備について支援する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(2)-ウ	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	施策	③学校教育におけるキャリア教育の推進
			施策の小項目名	○主体的に進路を選択・決定するために必要な支援
主な取組	キャリア教育推進に向けた支援		対応する成果指標	家で自ら計画を立てて勉強している児童・生徒の割合（小学校・中学校）
施策の方向	・総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間、各教科・科目における学習や学校行事など、教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成を図り、児童生徒が主体的に進路を選択・決定するために必要な支援に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
キャリア教育に関する全体計画・年間指導計画の作成および授業改善の校内研修の支援のため、キャリア教育コーディネーター等を派遣	県	キャリア教育コーディネーターを派遣し、キャリア教育全体計画、年間指導計画の作成支援及び評価、「キャリア・パスポート」の効果的な活用に関する校内研修等を実施			
		キャリア教育推進プログラム実施校数(累計)			
		15校	15校(30校)	15校(45校)	
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課		【 098-866-2715 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	キャリア教育推進事業			予算事業名	キャリア教育推進事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
一括交付金 (ソフト)	委託	9,772	54,238	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ソフト)	委託	47,412
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
キャリア教育に関する全体計画・年間指導計画・評価検証およびキャリア・パスポートの効果的な活用等に関する校内研修の支援を実施した(47校)。				キャリア教育に関する校内研修の支援をさらに充実させ、全県立高校で活用できるようにする。		

活動指標名	キャリア教育推進プログラム実施校数(累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	10校	24校	47校	15校(45校)	100.0%	順調	県立高等学校47校へキャリア教育コーディネーター等を派遣し、キャリア教育の計画を基に、学校目標並びに生徒の実態に応じた取組となるかを教師が主体的に検証や改善できるよう支援した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

県立高等学校47校にキャリア教育コーディネーター等を派遣し、ヒアリングをもとに、各校の実態に応じたキャリア教育全体計画作成の支援や、キャリア教育に関する校内研修等を実施した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>○県立高校全校で、キャリア教育コーディネーター等によるキャリア教育の推進のための校内研修の実施。</li> <li>○「キャリア・パスポートの活用」についての動画作成し、配信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県立高等学校キャリア教育担当教諭を対象に協議会を開催し、事業内容の説明や各校の活動状況などを協議した。</li> <li>○キャリアパスポートを活用した生徒のインタビュー動画を制作し配信した。</li> </ul>

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	教師のキャリア教育やキャリアパスポート活用の目的等については少しずつ理解が広がってきているが不十分である。	④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	コーディネーター等の派遣による教員向け研修を推進することで、キャリア教育の充実を図る。また、教員対象の協議会を通じ、各校のキャリアパスポート活用状況の研究や好事例の共有等を行う。